

Uniqueness & Presence

MISSION

社会と分かち合える 価値の創造

最先端の電子デバイスや通信システム、石油代替エネルギー、高度医療、食料管理一。SDGs(持続可能な開発目標)達成の鍵を握るこれらの産業には、「素材」の進化、「材料」の技術が不可欠です。私たちの製品群は、化学素材や材料の面から、産業・社会のイノベーションに深く関与しています。これからも常にミッションに掲げる使命を念頭に置きながら、社会変革を促す新素材と材料、及び技術を追求していきます。

ICT・モビリティ社会発展

ICT、AI、ロボット、ブロックチェーン、CASEなどのICT・モビリティ社会発展を支える化学素材・化学原料の重要性の高まりから、素材開発やソリューションの提案を強化していきます。

世界シェア 1位

BT系製品

優れた低反り性や電気特性を備え、半導体市場のあらゆる進化に応える独自素材



世界シェア 1位

超純過酸化水素

最先端ニーズに応える高品質な製品の安定供給をグローバルな生産体制で実現



世界シェア 1位*1

光学樹脂ポリマー

高屈折率、低複屈折性を両立させた特長により、カメラの高機能化に貢献

*1 高屈折樹脂として



エネルギー・気候変動問題解決

三菱ガス化学グループは、化学会社でありながら資源開発の歴史を持つユニークな企業グループです。当社グループならではの形で、カーボンニュートラルの社会実装を目指しています。

生産能力 3位*2

メタノール

世界で唯一のメタノール総合メーカーとして、環境循環型プラットフォームを推進

*2 当社技術を用いた関係会社の総計



世界シェア 1位

メタキシレンジアミン(MXDA)

優れた速硬化性・防食性・耐薬品性



化学会社 Only1

地熱発電

クリーンな電力の供給によりGHGの削減に貢献



医療・食料問題解決

世界的な人口増加や高齢化の加速を踏まえて、持続可能な食料管理への貢献や予防・予測医療の高度化、医療の生産性向上に直結する製品群の開発を加速させています。

世界シェア 1位

MXナイロン

高いガスバリア性を持ち、PETボトルの軽量化にも貢献



世界シェア 1位

芳香族アルデヒド

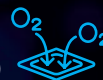
効率的で環境負荷の少ない独自製法で顧客要望に応じてカスタマイズ



世界シェア 1位

脱酸素剤(エージレス®)

食品廃棄ロスの削減や飢餓問題へ貢献



VISION

化学にもとづく、特色と存在感ある エクセレントカンパニー

あらゆる産業の“米”とも称される化学は、人々の暮らしや環境保全、社会インフラなどの分野で、無限の可能性を秘めています。当社グループは、社会の変化が加速する現代において、「特色(Uniqueness)」と「存在感(Presence)」を発揮することで、自らの姿を能動的に変化させながら、持続的な成長を追求しています。「化学にもとづく、特色と存在感あるエクセレントカンパニー」というビジョンは、私たちが目指す未来のありたい姿そのものです。

2030年ありたい姿

財務目標



売上高

1.2兆円

2024年度実績: 7,735億円

営業利益

1,200億円

2024年度実績: 508億円

営業利益率

10%以上

2024年度実績: 6.6%

ROE

12%以上

2024年度実績: 6.9%

ROIC^{*3}

10%以上

2024年度実績: 6.4%

*3 ROIC = (営業利益 - 法人税等 + 持分法損益) ÷ 投下資本

非財務目標



GHG排出量 (2013年度比)

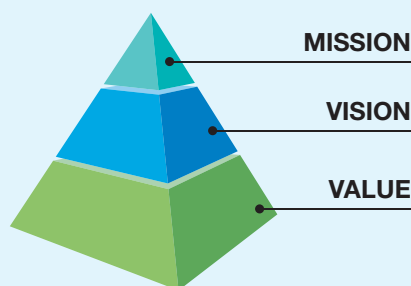
39%以上削減

2024年度実績: 31%削減(想定)

Sharebeing 売上高 (環境貢献製品売上高)

5,000億円以上

2024年度実績: 2,143億円



理念体系「MGC Way」

私たちは、独創的な素材や技術で社会の変革に貢献する、研究開発型の化学メーカーです。私たちの社会的使命(ミッション)は「社会と分かち合える価値の創造」であり、これは私たちが存在する理由でもあります。この「ミッション」の実現に向けて「バリュー(行動理念)」を体現し、「ビジョン」に掲げた特色と存在感を発揮することで、世の中から選ばれ続けるエクセレントな企業グループを目指しています。

VALUE

行動理念

プロフェッショナル集団として プロフェッショナルとは、信頼できる高い知識と能力、強い責任感の持ち主のこと。一人ひとりが頼りになるプロフェッショナル集団をめざします。

① 変化を恐れぬ勇氣

現状に甘んずることなく、新しいことに挑戦し、習慣を打ち破る勇氣を持とう。周囲の変化に応じて自分を変えるだけでなく、より良い状態に向けて、自らが環境を変えるほどの強い勇氣を持とう。

② 高い目標への挑戦

常に自分自身により高い目標を課し、その目標に挑戦する意欲を持とう。

③ 目標達成への執念

掲げた目標を達成し、成果を上げるまでは強い執念で何がなんでもやり抜こう。

④ 共感を広げるコミュニケーション

互いに信頼し目的を分かち合い、ともに協力するために、コミュニケーションの輪を広げよう。

MGC企業行動指針 サステナビリティ推進指針

当社グループの多様な事業を支える土台になっているのは、半世紀以上にわたって培ってきた「技術基盤」とそれを支える「企業風土」、戦略的な「パートナーシップ」、そして製造業の基本とも言える「安全文化」です。これらの経営資源を最大限に活用し、「バリュー（行動理念）」の実践によって、変化の先を見据えた新たな価値創造に挑戦していきます。

技術基盤



自社開発技術による製品

90%以上

(生産品目ベース)

世界市場トップシェア製品数の比率

約40%

企業風土



拠点のある国数・地域数

16か国

従業員満足度*4

75%

*4 従業員意識アンケート結果より。対象者は出向者を除く全従業員(単体)(回答率71.9%)

パートナーシップ



カーボンニュートラル関連プロジェクト数

約60件

グループ会社数

116社

安全文化



休業災害に係る度数率*5 (単体)

0.29

*5 延労働時間100万時間当たりの死傷者数

ISO9001取得率(単体)

100%

※上記は2024年度及び2025年3月31日時点

目次

1 インTRODククション

- 1 MGC Way
- 4 目次
- 5 社長メッセージ

Point

新社長の伊佐早より、MGCグループのありたい姿や持続的な企業価値の向上における重点について解説します。

10 価値創造セクション

- 11 価値創造プロセス
- 13 MGCらしさの源流
- 17 Uniqueness & Presenceの追求
- 19 U&P創出を促す経営プロセス
- 22 特集：MGCらしさを活かしたイノベーション促進
 - 1. 光学材料のポテンシャル最大化
 - 2. カーボンニュートラルの社会実装に向けて
- 28 カーボンニュートラル戦略

Point

MGCらしいイノベーションの促進とUniqueness & Presence(U&P)を軸とする成長システムについて解説します。

32 経営戦略セクション

- 33 中期経営計画の進捗
- 38 マテリアリティの進捗
- 42 財務戦略(CFOメッセージ)
- 45 研究開発戦略
- 49 事業展開と主な製品
- 51 機能化学品事業戦略
- 55 グリーン・エネルギー & ケミカル事業戦略
- 59 人材戦略
- 65 生産技術・環境安全・品質保証

Point

価値創造の仕組みを踏まえて、2030年にありたい姿からバックキャストした計画について、担当役員レビューとともに進捗を解説します。

68 ガバナンスセクション

- 69 社外取締役対談／新任社外取締役メッセージ
- 73 役員一覧
- 76 コーポレート・ガバナンス
- 81 リスクマネジメント
- 82 コンプライアンス
- 83 パフォーマンスデータ
- 87 会社情報

Point

価値創造戦略を支え、企業価値を持続的に高めるために、コーポレート・ガバナンスの実効性を高める取り組みについて解説します。

編集方針

『MGCレポート 2025』は、Uniqueness & Presenceを軸に持続的な成長を目指す価値創造ストーリーに重点を置いた「統合報告書」として編集しています。本レポートの制作においては、CSR・IR部を中心に、情報を集約・共有化する全社的な体制を構築しており、様々なステークホルダーの皆様に、当社グループへの理解を深めていただけるよう、掲載内容の充実に努めています。

参考にしたガイドライン

- ・国際統合報告評議会(IIRC)「Integrated Reporting (IR)」
- ・経済産業省「価値協創のための統合的開示・対話ガイダンス」
- ・GRI(Global Reporting Initiative)「サステナビリティ・レポート・スタンダード」
- ・TCFD(Task Force on Climate-related Financial Disclosures)提言
- ・TNFD(Task force on Nature-related Financial Disclosures)提言
- ・SASB(Sustainability Accounting Standards Board)スタンダード

報告期間

2024年4月1日～2025年3月31日
(2024年度)

※一部、過去及び直近のデータを記載

報告範囲

三菱ガス化学株式会社及び
三菱ガス化学グループ

※報告範囲が異なる場合は対象範囲を
各データに記載

発行責任者

取締役 専務執行役員 北川 元康
(CSR・IR担当)

発行

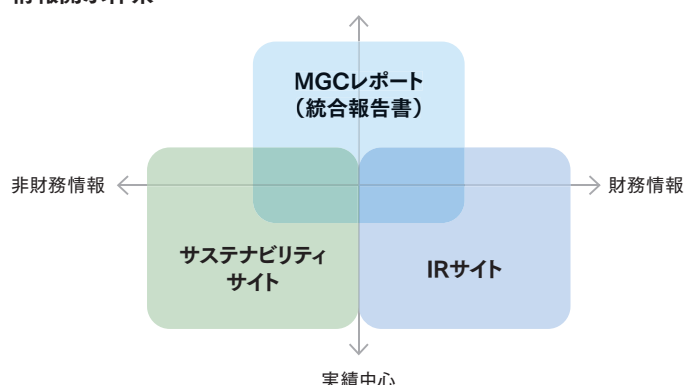
2025年8月

免責事項

本レポートに記載されている計画、目標などの将来に関する記述は、当連結会計年度末現在において当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて判断したものであり、不確実性を内包するものです。実際の業績などは、様々な要因によりこうした将来に関する記述とは大きく異なる可能性があります。

情報開示体系

中長期視点のメッセージ中心



より幅広い情報はWebサイトをご参照ください。

IRサイト

- ・有価証券報告書
- ・中期経営計画資料
- ・決算短信
- ・説明会関連資料



サステナビリティサイト

- ・サステナビリティデータブック
- ・コーポレートガバナンス報告書



※二次元コードをクリックするとWebサイトにリンクします